

## 令和2年度袖ヶ浦市青少年問題協議会

1 開催日時 令和2年10月27日（火）午後2時開会

2 開催場所 市役所旧館3階大会議室

3 出席委員

会長	粕谷 智浩	委員	近藤 英明
副会長	御園 朋夫	委員	小島 直子
委員	花澤 一男	委員	市原 義雄
委員	田所 公司	委員	田中 雪夫
委員	大坪 邦夫	委員	尾高 文男
委員	鈴木 大介	委員	征矢 真理子
委員	小泉 憲治	委員	江崎 智美
委員	根本 博之	委員	大平 吉彦
委員	瀧澤 真		

4 出席職員

生涯学習課 課長	生方 和義
生涯学習課 社会教育班長	浦邊 宜文
〃 副主査	佐野 友章
〃 主任主事	宮澤 彩花
〃 主事	高橋 はな

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 報告および情報交換

(1) 木更津警察署管内の青少年犯罪の現状について

田所委員

令和2年度における木更津警察署管内の木更津市、袖ヶ浦市における少年犯罪の状況を報告させていただきます。まず、少年の非行状況をお話する前に、木更津警察署管内全体の犯罪情勢について簡単に触れておきます。暫定の数字になりますが、昨日現在の犯罪発生件数は概ね800件を下回る程度で推移しています。前年の同時期と比べて300件程度少なく、マイナス25パーセント程度となっており、犯罪の件数は大幅に減少しているという状況にあります。これは今年のコロナ禍という特殊な状況の中で、いわゆる窃盗犯が大幅に減少しているというのが大きく影響しているとい

うことが言えます。例えば、空き巣ですけれども、今年のコロナ禍の状況で皆様がご自宅にいらっしゃることから、大きく減ったということがあります。また、自転車の盗難につきましても、緊急事態宣言下において学校等が休校になり、また、社会ではリモートワークが一般的に浸透してきたことから、この間自転車に乗って通勤通学等をしていない、自転車が動かないということで、盗難が減ったということがあります。ただ一方でインターネット等を利用した詐欺ですとか、購入トラブルなどといったインターネットを利用した犯罪については、例年に比べて若干増えているという状況にあります。しかしながら犯罪の総数としては大幅に減っているというのが現状です。これを踏まえて、本年9月末現在の少年の非行状況ですが、14歳未満で罪を犯した少年は29名ありました。これは前の年の同じ時期と比べて1人増えているという状況です。犯罪の総数が減っている中で、少年犯罪はほぼ横ばいというこの現状をご認識いただければと思います。この29名の内訳ですが、大半の25名については刑法犯になり、窃盗や傷害といった犯罪が大多数を占めています。今年の特徴としまして、一般的に非行のゲートウェイ犯罪といわれる自転車窃盗であったり万引きであったりあるいは同級生同士の喧嘩における傷害事件というのが大半を占めていたのですが、今年は若干情勢が違いまして、いわゆる重要犯罪といわれるものが若干数目につきます。例えば逮捕監禁罪、強制わいせつ罪、さらには聞きなれない犯罪だと思えますが電気計算機使用詐欺があり、これは何らかの方法で入手した他人名義のクレジットカードを使い、ネット上で買い物をするなどの事例があります。こういった重要犯罪が若干目につくところになります。残りの4名についてはいわゆる軽犯罪法違反ですとか、青少年健全育成条例違反ですとかになります。例年と違い今年は犯罪の低年齢化に加え、若干重大化しているところが危惧されています。ただ、これは補足になりますが、今年当初に南房総市を一帯に活動する暴走族グループの壊滅を目指し、本庁少年課と隣接する富津警察署・君津警察署と合同で捜査を行っておりますので、それが若干数字に反映されているものと思われますのでご了承ください。つづきまして、不良行為少年の補導の件数の報告になります。こちらの方は9月末現在で157件となっており、これは前の年の同じ時期と比べますと、マイナス13件となっており、こちらの方は若干減っています。補導行為別に見ますと、一番多かったのは喫煙56件で昨年度と同じ。深夜徘徊が35件でこちらも昨年度と同じ。飲酒行為が24件で昨年と比較して6件の減少です。その他は怠学行為や暴走行為、立ち入り禁止場所に入り込んだ例などがあります。学生別に見ますと、一番多かったのは高校生が53件で昨年比マイナス5人。中学生が23人、小学生が7人、というような数になっています。ただ、少年補導の多数を占めているのは、働いている有職少年や何もしていない無職少年といったものが多くを占めている現状にあります。冒頭申し上げましたように、今年はコロナ禍の影響で犯罪総数が非常に減っているところではありますが、こと、少年犯罪に目を向けますと、昨年とほぼ横ばいということで、本来は減っているはずの少年犯罪があまり減っていないという現状があります。ただ、この数年は少年犯罪が減少傾向にあります。この後、年末に向かうに従って犯罪統計数値は変わってきますので、今後はマイナスに推移していくものと見ていますが、引き続きこういっ

た少年犯罪に対する検挙活動を行っていきます。

ここで犯罪の現状ということでお時間をいただいておりますが、今年木更津警察署で取り組みましたコロナ禍における防犯活動について若干のご紹介をいたします。ご存じのとおり、緊急事態宣言の中で市内小中学校等が休校期間中でした。この間木更津警察署では、自宅で児童のみが留守番状態になる家庭が多数増えることにより、留守番中の児童を狙う犯罪が懸念されたことから、移動交番車や防犯協会が所有する青色回転灯車両に協力を頂き、広報活動をしなから主に住宅街を警戒する活動を実施しました。また、6月1日からの登校再開時には、地域課・交通課・生活安全課や関係団体の協力がありまして、見守り活動を実施しました。学校まわりや主要交差点等における見守り警戒活動を実施して、防犯や交通事故抑止の活動を行いましたが、この実施期間中における大きな事件事故等は幸いにも発生しませんでした。

質疑応答

御園副会長

先ほど、情報関係の犯罪が増えてきたとのお話でしたが、子どもたちのSNSを使った問題というのは、警察のほうにも情報が入っているのでしょうか。

田所委員

SNSを利用した犯罪もそうですけども、いわゆるそれを利用したいじめですとか、顔の見えない相手とのトラブルに関する相談というのが、警察のほうに寄せられています。市内各小中学校や高校の先生方からいわゆるSNSの教室等の開催依頼が当署のほうにも来ておりますので、そのような知識に長けた本部の職員を派遣して、生徒さんや先生方に対しての出前型講義を実施しています。前回の会議でもお話したように、やはり今、SNSを取り巻く犯罪というものが、大人だけでなく子どもにまで浸透してきておりまして、スマートフォンの普及率が高校生で100%、中学生で8割から9割、小学生でも7割近くに及んでいると聞いています。私も感覚的には小中学生の方が多く感じます、小学生でいじめ、中学生でトラブルに巻き込まれて事件になったというのが実感するところです。特に女子中学生に関しては裸の写真を騙して撮らせて送らせるという、いわゆる児童ポルノ法違反に該当するような犯罪ですとか、その送ってしまった写真をネタに脅して直接会って性犯罪に発展するという重大事案も県内で発生しています。SNSの適正利用については、各学校の皆様と協力して、生徒さんやその保護者の方たちに対して、正しい知識あるいは正しい使い方を学ぶ機会を多く設けていきたいと考えています。

鈴木委員

学校におりますと、SNSの教育というのが必要であると強く認識します。先ほどのお話の中で暴走族グループの取り締まりというのがありました。暴走族という単語自体に時代を遡ったような感もありますが、少しやんちゃな子などに話を聞いていると今でもあるということで、どうしてもそういったものに憧れを持つ子も少なからず

いるというのが現状かなと思っているところもあります。そこで、現在の暴走族グループというのが、どのような年齢層でどこら辺の地域にあるのかというのを教えていただけるとありがたいです。

#### 田所委員

現在、全容が解明されている訳ではありませんので、明言はできないところもありますが、今年取り扱ったグループの年齢構成で見ますと、下は15歳から上は19歳あたりまでが大半を占めているところです。活動地域としては、袖ヶ浦よりももっと南で、木更津から君津・富津この辺りの活動が多くなっているところです。最近の暴走族は一昔前のものとは少し色が変わってきていまして、昔のイメージですと、皆で集まって改造したバイクをノーヘルメットで乗り回して、ブンブンブンンやかましいだけで終わっていたところですが、最近は犯罪グループ・犯罪組織化しているという印象があります。通常、警察では半グレと申しますが、準暴力団として把握している、いわゆる暴力団ではないのだけでも、同じような組織性を背景に犯罪行為等を繰り返す集団と化してきているというのが感じられるところです。実際に今年摘発したグループは、管内でいわゆる活動するための資金集めのために恐喝行為を繰り返したり、果ては対岸の神奈川県まで出張っていき、いわゆるオヤジ狩りをして金銭を集めたりと、このような行動をしているというようなことがありました。ただ集まって暴走行為を繰り返すのではなく、犯罪集団化してきているというのが、最近の暴走族の特徴になってきています。それがそのまま年齢を重ねていくと、半グレグループ化してその中から暴力団に流れていくというような構図が出来上がっているように思われます。ただこれは、非常に組織が細かくて、最近の少年たちは縦の関係よりも横のつながりが強い特徴がありますので、なかなかグループ自体の解明に至っていないのが現状です。引き続き情報収集を進め、実態解明を進めて、犯罪抑止につなげていきたいと考えております。

#### (2) 小、中、高等学校の現状と課題について

##### 小泉委員（小学校）

現状と課題についてということでしたが、まさにコロナとの日々ということにつきまします。長期の休校に入り、入学式を迎えまして、シフト勤務ですとか、家庭での課題配布ですとかの対応において、後手に回ってしまったところがありました。なかなかこちら側のペースに持っていけないというところで大変だったように思います。また、児童同様に教職員の健康も守りながら、様々な対応を迫られたところもありますので、なかなか厳しかったというのが正直な思いです。先ほど警察の方からも言っていたのですが、再開時に交通安全パトロールを大変熱心にやっていただいたおかげで、スムーズなスタートができたかと思えます。とてもありがたいものでございました。現在ですが、決して楽観視はできない状況ですが、十月に入ってようやく市内の小学校でも運動会を実施することができました。学校生活に潤いが生まれまして、児童の方も目を輝かせながらの活動ができたものと思っております。その後、順を追っ

て修学旅行の代替的な旅行ですとか、各学年の校外学習などの準備を進めており、本来の教育活動に移行しつつあるというのが現状です。当初心配されておりました、授業時間につきましても、このまま第二波による休校というものが起きない限り、進度の遅れというものはほぼ無くなったと言えらると思います。次に、課題ですが、すべてをコロナのせいにするべきではないのですが、先ほどのSNS絡みの話で、オンラインゲームでのトラブルを挙げるすることができます。中には休校期間中にオンラインゲームにのめり込んでしまい、昼夜逆転の生活を送った結果、生活のリズムが崩れてしまった児童もいました。現在「フォートナイト」という爆発的な人気になっているゲームがあり、夢中になった者がゲーム中でのトラブルをそのまま学校生活に持ち込んでしまったというケースがあります。また、そのゲーム中でのやり取りの言葉についてもすごいものがあり、昔の小学生が言わなかったような「煽る」というような攻撃的な言葉がゲーム上で普通に使われているようなことがあります。また通常のオンラインゲームと同様に課金に係るトラブルもあり、市内の小学校の例ですが、父親もこのゲームに子どもと一緒に夢中になってしまい、数十万円も課金したケースがありました。また、学級の中でも、そのゲームにおいて影響を持っている子が力を持ってしまい、ゲームの世界を現実には引きずってしまうようなこともあります。そういった事例もあり、怖いなど思っているところではあります。そのようなオンラインゲーム等の制限については、会議等で保護者に投げかけるくらいしかできていないのが現状です。また、長期欠席の問題があります。現在、風邪症状による出席停止扱いにより、長期欠席の傾向が見えづらくなっているところがあり、コロナウイルスが沈静化したあとに反動のように長期欠席の数が増えてしまうということが懸念されています。

#### 鈴木委員（中学校代表）

小学校からの報告にもあったように、コロナ禍での影響のお話もありますが、現在市内5校においては警察の方のお世話になるような、生徒指導上の問題は発生しておりません。ここ数年来、市内5校においては個別の問題が多少あったにしても、非常に落ち着いた状況が続いています。また、病欠率についても、中学校の方は近年減少をしていたところですが、先ほどより話がありましたように、多少具合が悪くても、コロナの影響で出席停止としなければならぬこともありまして、欠席状況が具体的には見えてこないところですが、一方で、非常に興味深い傾向としては、休校が明けた後に、長期欠席傾向が強かった子どもたちがかなり多く登校し始めたというようなところがあります。どういった心理的影響があったのか分かりませんが、市内5校のすべてで見られた傾向でした。何となく、皆で一緒に休んでいたから気持ちのリセットされたということがあったのかも知れませんが、そのまま継続して登校できた子、途中で息切れした子など様々ありますが、子どもたちの心理に及ぼした影響というのは少なからずあるなというところを感じています。また、生徒指導とは言えませんが、4月・5月の休校明けの6月に、いずれの中学校も個別の面談やアンケートなどを実施しました。虐待等の察知のためです。この休校期間中、親も含めて家にずっと居るといふ我慢の時間を過ごした中で、虐待がすごく心配をされました。アンケート等で出

てきたところでは、全くゼロであった訳ではないというのが実情です。その点についても、今後も埋もれているものをあぶり出していかなければならないというところで、なおコロナの影響が続いている現状を踏まえると、各中学校も引き続き子どもたちへのアンケートとか、教育相談を充実させて、そういった問題の拾い出しに努めています。また、少し生徒指導から離れますと、中学校としては授業時間を回復することが、大きな命題でした。ただ、少しつつまびらかにしていくと、4月・5月の2か月間で実際に授業日として休んでしまった日が34日ありました。この6月からの明けで夏休みの短縮等を市内一斉で行っています。また、県民の日を通常休みにしているのですが、これを授業日としました。また、秋休みとして一日多く取っていたのを授業日としているところで、ここまで合計で20日分の授業日数を回復しております。まだ引き算すれば単純に14日分足りないところですが、入学式があったり、修学旅行があったり、生徒総会があったりと色々な取り組みがあったりしてその日数がある訳で、単順に国数英理社などの勉強をする日数が14日分足りていないという訳ではないので、単に授業日数という点では回復しているというのは、そういった事情があります。また、体育祭や文化祭など様々な取り組みも中学校はすべて実施をしていますが、それについても、かなり取り組み期間を縮小して行っておりました、それらで浮いた時間も授業日数にあてがっていきたりしますので、まだ全回復ではありませんが、年度を見越したところでは回復できる見込みをもっています。この授業日数については、子どもが神経を使うのは当然ながら、3年生の受験に向けてのものでもあります。私立高校の受験ですと1月明けの半ばに始まりますので、現実としては12月までの授業である程度全てのを終えておかないと受験に対応できないというところがあります。そのために、かなり神経を使って授業を進めてきたところですが、今申し上げたところで、例えば土曜日に授業を行うとか、6時限の授業を7時限まで行うとかいったような事態にはなっておりません。また、1時間の授業1.5時間分とか2時間分とかの内容を詰め込むといったこともしないで順調にすすめているというところではあります。体育祭・文化祭・修学旅行についてですが、修学旅行は中止とし、2年生の時に2泊3日で自然体験学習という宿泊学習を行っていますが、これについても市内一斉に中止となってしまいました。また昨今、各地のニュースで修学旅行の代替措置としての様々なイベントを実施したという報道がありますが、子ども中学校長会としても、かねてからその代替措置についての考え方と実際の動きをどうするかという話し合いを何度となく重ねてきましたが、現状としては市内5校ともに代替措置を具体的に企画していません。というのも、各学校で差はありますが、本校においても2回の日程変更により延期を重ねております。そういった中での一斉中止という流れになりましたので、子どもたちの心情としては、まだコロナ禍が収まらない中で、また軽々に子どもが企画をして、コロナの第3波のせいでもたまたまた無しというのは、子どもたちにはかなり酷な状態を生むのではないかなと考えています。リスク管理としてはそちらの方がより重たいのではないかなということと、今年度特に公立高校の入試が今までの前期後期制から一回になるという、大変大きな変化を迎えております。そういった意味では子どもたちの不安もかなりそちらの方にシフトしていますので、そちらに

答えていく方が私たちのやるべきことだろうという結論になり、本市の方では代替措置をとっていないというところになります。受験後に何かできるかについては、また今後話が出てくるかも知れませんが、いまのところこのようなところです。体育祭と文化祭については、5校ともすでに体育祭は実施しました。文化祭についてもこれから2校が実施の予定であり、3校が既に終了しています。文化祭については主に合唱コンクールですが、ご承知のとおりコロナ禍で歌を歌わせるというのは、かなりリスクではありますが、修学旅行等が見合わせになっている状態で3年生に何とか学校行事を担保してあげたく、この場では一つ一つ申し上げたらキリがないくらい細かく対応策を講じて、合唱コンクールまでこぎつけたというところです。やはりやってよかったとは思いますが、学校によっては3年生の保護者のみの参観ですとか、もしくは参観なしとかというような対応になっております。また、今後の対応についてですが、今年度は特に受験のシステムが大きく変わったことに対する対応や、細かい点ですと学習指導要領が中学校について変わることへの対応、それと最後に大きなところでオンライン学習への対応をどうしていくかという点について、市の教育委員会などと相談をしながら、今後どのように学校として取り組んで行くかを、本腰を入れて検討していくこととなります。

#### 大坪委員（袖ヶ浦高等学校代表）

コロナに関しては公私に関係なく影響が大きいところです。もちろん学校だけではなく、大人の世界も同様ではありますが、何しろ新しい生活様式が、私からすれば人として必要なことを制限していると感じられるところがあり、例えば、マスクについては、人とのコミュニケーションを取るうえで表情が読みづらいということがあります。そう言ったところで、生徒の疲弊というのは目に見えないところで出ているように思います。特に高校生は春先の部活動の大会がほとんど中止になっており、特に本校は部活動を学校活動の中心に回しているようなところもありますので、3年生がダラダラっと進んでしまったというところがあります。休校と外出自粛が続き、夏になれば記録的猛暑に遭いまして、非常に疲れていると。実際に本校においてもスクールカウンセラーへの相談件数が増えているところで、スクールカウンセラーの先生が言うところでは、ここへ来てコロナの影響が出ているという話がありました。先週の新聞報道にもあったように、全国の中高生の自殺者が58件あり、昨年より2倍になっています。今年8月に自殺した高校生が42人、中学生が16人、高校生のうちの女子22人となっているようで、これは昨年の7倍になっているということだそうです。また、有名な芸能人が自殺したその影響も大きいのではないかとことです。県のほうも昨年からは始めているのですが、SNSですとかLINEですとかを利用した相談窓口を開設しまして、昨年は非常に件数が集まって有効だったという話を聞いております。今年度も続けて実施しています。その中でも今年最も多い相談なのですが、相談内容が家庭環境についての相談が30.5パーセントあったそうで、これは昨年度比11.5ポイント増加しているということです。また、貧困に関する相談も11.

2パーセントあったようで、これも4.2ポイントの増加だそうです。また、先週の新聞報道によりますと、全国の相談窓口について記事で、全国の女子中高生からの相談でコロナの影響で母親が家に居るようになり自分がストレスのはげ口にされているとか、臨時休校明けでクラスに馴染めないというような、まさにコロナの影響が出ていて、そのようなダメージを受けている中高生が多いようです。私としても日ごろから先生方をお願いをしておりますが、生徒の良くないところは指導しなければならないところですが、指導の仕方については生徒一人一人に合った指導の仕方を工夫し、計算をされ尽くした指導をするように話をしています。言葉遣いであったり、指導のタイミングであったりと、とにかく生徒の様子をつぶさに観察した上で行ってほしいと申しているところです。それから、コロナの影響でいいますと、高校ですので卒業後に就職する生徒がいます。本校ですと毎年民間企業に40人前後いるのですが、昨年度までの売り手市場から一転したとの記事を目にしますが、本校については求人の数や内容については昨年度と同じでした。ただし、倍率が跳ね上がった企業がありまして、昨年であれば、二次募集三次募集が来ていた企業についても、今年は結構優秀な生徒が受けたにも関わらず、倍率が高くて落とされたということがありました。なので、求人自体はあるのですが、一部の企業に集まってしまい倍率が高くなっているところを見ますと、企業の募集自体が減っているのではなかろうかと思うところがあります。それから、進学希望者ですが、ご存じのように共通テストのドタバタがありまして不安があったところですが、生徒のほうはそれなりに対応しております。今後の受験体制については前向きに取り組んでいますが、ただ、いわゆる推薦入試にかかる面接について、オンラインの面接というのがありまして、オンラインの環境が揃っていないご家庭もあり、その子たちを全部学校でやるかという、学校についてもそれほど環境が充実しているわけではないので、工夫して割り振りしながら対応していく必要があります。面接がオンライン化したのもコロナの影響と考えております。それから、学校の行事についてですが、ほとんどが中止となっています。例年ですと文化祭を6月に公開で実施しており2千人ほどの集客があります。しかし、この状況下では難しく、また非公開でやるというのも現実的に厳しいこともあるので中止としました。それから、芸術鑑賞会も毎年君津文化ホールで行っておりますが、文化ホールにおいては一つ置きに席を使うということだったので、全校生徒を入れることができないため中止となりました。また、講師を呼んでの講演会については、体育館の収容人数の都合上、学年単位のものを残して、他を中止としました。ただ、全部が中止というのもいかなものかということで、体育大会だけは実施し、それに先立ってどのような競技であれば可能か、生徒たちに考えさせた結果、リレー競技ということになりました。その時が今年度初めての全校生徒の前で話をする機会となりました。もっと言うと、昨年度末の一月の始業式以来のことでした。それ以降は校内放送で話をするような状況です。おそらく本年度はその体育大会が全校生徒の前で話をする最初で最後の機会になると思われれます。なお、体育館については、二学年までは入れるという認識でいます。ある程度距離をとって並んでいけば500人ちょっとは入れる計算になります。なので、卒業式は3年生とその保護者だけでの実施を考えてい

ます。それから、高校全体でいいますと、昨年度も申し上げていましたが、成年年齢の引き下げというのが大きいかなと考えております。2022年4月1日から18歳で成年扱いになりますので、今の高校1年生が3年生で18歳になった時に成年になります。大事なことは消費者教育ということで、今も少し授業に取り入れているのですが、新しい学習指導要領を先取りしながらやっていく必要があると考えています。それから、高校入試の話になりますが、前期後期制から一本化されまして、前期選抜でおこなっていた学校で実施する検査を一日かけて行えており、本校では自己表現と面接を実施していましたが、今年度は2日目の午前まで学力検査がかかってきますので、学校で設定する検査が半日分しかできません。そこで本校では面接をやめまして、自己表現だけにします。普通課程では実技による自己表現を行っており、本校では部活動の中で得意な種目を選んでもらい、実際に実技を披露してもらうという方法です。もう一つは文章による自己表現で50分をかけて800字以内で自己アピールをしてもらいます。本来であれば、口頭でのアピールをしてもらっていますが、なにしろ一人ずつ聞いている時間が無いので、そのような形にしました。それから、情報コミュニケーション科では実技による自己表現と、口頭による自己表現にしており、これは情報コミュニケーション科がコミュニケーション能力の育成を大きな柱にしていることによるものです。千葉県の中学生人口は昨年度に比べて2050人減ったと聞いています。そこで県立高校は36学級減、市立高校は1学級減となりました。近隣高校では市原八幡高校が6学級から5学級に減りました。それから、君津高校が6クラスと上総高校が普通科2クラスの園芸科1クラスとなっているところ、2校が統合されて君津高校になり、普通科が6クラスと園芸科が1クラスになり、だいぶ生徒数が減ります。最後になりますが、本校の生徒が一番お叱りを受ける場面が登下校の状況です。特に朝ですが、大体決まった時間にどっと来ますので、横断歩道の信号が点滅してから渡っているとか、道いっぱい広がって歩いていたという報告を受けます。日ごろから注意をしているところではありますが、今後も引き続き指導を行っていきます。

### (3) 令和2年度青少年健全育成事業の実施状況について

#### ア 青少年相談員連絡協議会事業

##### 江崎委員

私たち青少年相談員は、地域における青少年健全育成の担い手として、青少年相談員64名が力を合わせて、多くの活動に取り組んでいます。残念ながら今年度は新型コロナウイルスのために、多くの行事が中止または縮小となっしまい、青少年相談員の活動においても、夏のドッジボール大会の中止など、子どもたちとふれあう機会が減ってしまいました。しかし、そんな中でも君津地区4市の青少年相談員がタッグを組み、地域の小学生と共同で、新型コロナウイルス退散を祈念し、千羽鶴ならぬ万羽鶴の企画を進めています。また、各支部においても、学校等での奉仕活動などを行っており、新型コロナウイルスに負けぬよう、いまやれることを、それぞれの青少年相談

員が考えて活動を行っています。コロナウイルスのために今は大変な状況ですが、地域の子どもたちの笑顔のために、袖ヶ浦市青少年相談員は進み続けます。

#### イ 子ども会育成会連絡協議会事業

##### 征矢委員

子ども会は年間を通じて多くの活動に取り組んでおり、スポーツや野外活動を中心とした「遊び」を通じ、協調関係の大切さなど、子ども達の間人関係を築く力を養うことをねらいとしています。また、活動にあたっては行政機関、他の青少年育成団体と連携し、互いに信頼関係を築きながら、地域教育力の向上に汗を流しています。

しかし、今年度の活動につきましては、新型コロナウイルスの影響により、青少年相談員と合同で開催している子どもスポーツ大会や、房総こどもかるた大会が中止となってしまう、キャンプ等も開催を見合わせている状況です。この他詳細につきましては、袖ヶ浦市子ども会育成会連絡協議会の会長でもある、田中委員より補足説明をさせていただきます。

##### 田中委員

昨年度の9月の台風以降、主だった活動はできておらず、かわいそうなのは小学校6年生であったり、中学3年生が最後の子ども会活動が全くできなかつたりといったところが、非常に残念に感じているところです。今年の夏にもキャンプの予定をしていましたが、このコロナ禍でテントに泊まるというのは、なかなか危険なことであるということで中止にしたところです。マスクが取れない状況で事業を行うということが、コロナウイルス蔓延の懸念がある以上、子どもたちを集めて事業を実施するのは難しいところであると認識しています。先日の10月1日に君津亀山少年自然の家に来年度の日程の調整をしているところですが、8月8日から10日まで日程を押さえたのですが、君津亀山少年自然の家の側も実際にはコロナが終息しないことには、来年の夏について使えるかどうかはわからないということでした。子どもを集めて何かをやるというのは、今年は特に難しいところになると思っております。

#### ウ 青少年育成袖ヶ浦市民会議

##### 高橋主事

(資料により説明)

#### エ 放課後子ども教室

##### 宮澤主任主事

(資料により説明)

#### 質疑応答

小泉委員

放課後子ども教室についてですが、資料6 ページ目の2番に実施されている学校に一覧が載っていますが、先々の展望についてはどのように考えられていますでしょうか。

宮澤主任主事

今後の展望についてですが、資料にありますように昭和小学校が平成20年度に開始、長浦小学校が平成24年度に開始され、しばらくの間2校のみで実施していましたが、平成30年度に市内の全児童を対象として、放課後の子どもの過ごし方についてアンケートを実施し、その結果をもとに令和元年度から根形小学校を試行的に開始しました。今後の展開につきましては、市内の各小学校と協議を重ねながら検討したいと考えていますので、現在では未定となっています。

小島委員

質問ではなく報告ですが、社会福祉協議会の活動の中で地区社協という地域の社会福祉協議会があるのですが、今回蔵波地区社協においてコロナ禍の中ですが支えあいという活動計画の中に世代間交流を計画したいということで、11月末と12月の初めに、お子さんから高齢者まで声掛けをしまして、様々な対策をしながら実施してみようかという話になっています。ながうら青空の会と協力して実施する予定です。お話を伺っている中で、今年度はきちんとした見通しをもって進みたいと考えたところです。

大平委員

地区住民会議の活動の中で、通学合宿とデイキャンプが今年度は中止ということでしたが、例年どれくらいの方の参加があるものでしょうか。

高橋主事

例としまして、通学合宿では昭和地区の坂戸の森みどりの会では昨年度16名の参加申し込みがありました。デイキャンプでは根っこの会で子どもが95名、大人が50名の参加がありました。

大平委員

デイキャンプについては、数多くの方が参加されているとのことでした。一方の通学合宿については非常に良い取り組みとだと思いますが、参加されている方がほぼ決まっているということをお聞きしたので、数多くの方が参加できるような取り組みを検討して頂きたいと思います。

(4) 意見交換

粕谷会長

今年度は新型コロナウイルスの影響を各所で受けているところではありますが、そういうことを踏まえた上での意見ですとか、改めて情報共有を図りたいというお話がありましたら、是非ともお願いします。

#### 鈴木委員

各団体の皆様からも、イベント等が中止だったというお話を伺いました。私ども中学校としても様々なものを中止してきたところです。おそらく私どもに限らず来年度に計画についてはすでに着手されているところだとは思いますが。私どもでいうと文部科学省のガイドラインや様々なQ&A等を踏まえながら、どうやったらできるかということを探しながら進めているところですが、ただ、現実としてはガイドラインも微に入り細に入り書いている訳ではありませんので、ある程度こちらの解釈で判断をしていく必要があります。先ほど報告させていただきました合唱コンクールについても、他市では多くの学校が実施せずということになっています。その中で私どもがやるというのもガイドラインの中で良い悪いは書いていませんので、対策をガイドラインに沿って進めるという中で、最終的には長が判断しなければならないところだと考えています。そういったところで次年度の計画を立てるにあたって、皆様方でどのような状況になったら、計画通りできるかどうか、どのように話合われていますでしょうか。保護者の方についても、受け取り方がかなりバラバラで、例えば先ほどあったようなバーベキューなどについても、このコロナ禍でやるのはとんでもないという考え方もあれば、対策をとれば十分だしやらせてあげなければかわいそうであるというような意見もあります。そのような様々な意見がある中で次年度の計画を練っていかなければならないというところがあります。そこで各団体の皆様の基準と伺いますか、一般的な感覚というのを是非伺ってみたいと思います。

#### 大坪委員

高校という枠で考えますと、あまり勇気を出してやろうというのは無いです。これは高校生自身の行動範囲が広いので、どこでどのような接触をしているかわからないところがあるからです。それに加えて、現在新型コロナウイルスが第二類感染症に指定されており、一人が感染すると感染経路を辿るため、濃厚接触者を探すということになり、休校になってしまうことになる。そうなってくると、誹謗中傷を心配する必要が出てしまい、それが無かったとしても、感染した本人がすごく責任を感じてしまうことになってしまうこともあります。そうなってくると、例年どおりの行事には持っていけないというところがあると思います。実際に文化祭を今年中止にしたということで、来年の文化祭については、昨年度の文化祭を入学して2カ月足らずの1年生だった3年生しかいないことになり、伝統が途切れてしまうおそれがあります。なので、担当の先生方には、新しい目線で規模を縮小してでも、今のうちに開催を考えておいてほしいというのを伝えてあります。現時点でははっきりしたことは申し上げられませんが、少なくとも言えるのは、コロナ前には戻れないなということです。

#### 田中委員

学校ですと授業があって子どもたちが登校するのは当たり前ですが、我々子ども会ですと、親御さんの理解が当然に必要となってくるところがあります。今の状態ですと親御さんの理解が来年の4月以降に得られるかということについて、コロナの状況が収まらない以上は難しいと思います。このような状況で子どもたちを集めるということについて、親御さんの方が躊躇するようなどころがあるのかと思います。

#### 江崎委員

青少年相談員の活動ですと、状況に応じてその都度話し合っ進めているような状況ですので、次年度のことよりもまず今年度をどうするかを考えているところです。小学校などにおいても他校間の交流を実施していない中で、市内の様々な地区の子どもたちを集めて何かをするということについては躊躇してしまうところがあります。やはり、学校側の活動と足並みを揃えないといけないという認識ですので、そういった意味で今現在の活動は難しいところにあると考えています。

#### 御園副会長

先ほど小泉委員のほうから、子どもたちの状況ということで話を伺いましたが、ある学校に行ったところ、その養護教員の方からお話を伺いましたが、最近は調子の悪い子が来るということでした。これは何かというと寝不足だそうです。家にいてオンラインゲームをやって外に出ないと。それで夜遅くまでオンラインゲームで遊んでしまうような子どもも増えてきているという状況です。そうすると、外に出ないということ体力がつかないという状況も、今後考えられます。また、昼夜逆転の子どもが増えてくると、学校にも来なくなるという可能性があるかも知れません。そういったオンラインゲームによるマイナス面が今後出てくる可能性が多くなるのではないかと危惧しており、この点早急に取り組んでいかないと、健全な子どもたちが育たなくなってしまうことに心配を感じています。特に見えない中で相手と接しますので、先ほど話に挙がったようなことが出てきたり、大人がゲームに入ってくることによって犯罪につながってしまうようなこともあったりと、今後そのようなオンラインゲームが社会的な課題になってくるような気がしています。

#### 田所委員

今のお話を伺いまして、確かに警察のほうにも日々色々な相談が寄せられているところではありますが、先ほどのお話にありました、いわゆるスマホゲームによる課金問題というの、昨年に比べて今年は多くなっているような傾向にあります。その中の一例として、親に隠れてスマホゲームを課金して何万円何十万円単位で使ってしまうようなケースですとか、中には親御さんがしっかりとスマートフォンにフィルタリングをかけたにも関わらず子どもたちがその解除方法をスマートフォンで調べて解除して課金するというケースがありました。また、クレジットカード決済のみに設定していたところ、親御さんのクレジットカードをお子さんが盗み見て、カード番号と

セキュリティーコードがあれば決済できてしまうので、それを入力して決済を繰り返してしまうというようなこともありました。そういった中で親御さんが取れる最終手段はゲームを取り上げるしかない訳ですね。そうすると子どもたちがどういう行動に出るかという、親御さんに対して暴言を吐いたり、ひどくなると暴力を振るうようになっていたりということがあります。今年寄せられた相談で一番ひどい例ですと、包丁を持ち出して脅すというケースもあり、いわゆるゲーム依存状態になっているようなケースもありました。やはりこれもコロナの影響の一つなのだろうと認識しています。やはりこれは、正しい知識ですとか家庭内のルールを決めていくことももちろん大事ですけども、コロナの影響ですと家に閉じこもっている中で、やることがあまり無くストレスが溜まってゲームで遊び、それがどんどん依存症へ進んでいくというような負のスパイラルに陥っていくような気がします。その中で一つ、素人考えかも知れませんが、先ほどからのお話でコロナの影響で様々なイベントを中止せざるを得ないということをお聞きしましたが、当の子どもたちがそれに対してどう考えているのかという面もあると思います。コロナウイルス対策の必要性は、大人は当然認識していると思いますが、主役である子どもたちがどこまでそれを認識しているか、理解しているかという点について、子どもを置き去りにしない、子どもたちの意見をしっかりとくみ上げて、それを活動に反映していただくと、多少なりとも子どもたちのストレス軽減につながって、こういった問題は減っていくのかなと、個人的には思っています。

#### 近藤委員

特に数字等は用意してはいないのですが、お話を伺っている中で、子育て支援課では児童虐待防止対策を進めて、その状況につきまして簡単に説明させていただきます。コロナ禍の中ということであり、実際に子どもが家にいる訳ですが、親のほうも仕事が休みであったりテレワークであったりと、家で子どもと親が過ごす時間が増えまして、それまで親子の楽しい時間であったものが、長く一緒にいることでストレスになってしまうようなことがあると思われ、そのせいか本市における児童虐待の通告件数が上昇傾向にあります。そういった中で私ども子育て支援課も対応していますが、やはり休校期間中となると学校側との連携についても思うようにいかないところがありました。現在では学校側との連携をしながら対応しておりますが、まだまだ現状としてそこまでコロナの状況が好転している訳ではありませんので、そういった中で各団体の代表の皆様におかれましても、そういった虐待が疑われる案件がございましたら、子育て支援課もしくは児童虐待の通報窓口の電話番号184までお知らせいただければと思います。

閉会 午後4時25分

# 令和2年度袖ヶ浦市青少年問題協議会

## 次 第

日 時 令和2年10月27日(火)  
午後3時から  
場 所 市役所旧館3階大会議室

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 委員自己紹介

### 4 報告及び意見交換

(1) 木更津警察署管内の青少年犯罪の現状について

(2) 小、中、高等学校の現状と課題について

(3) 令和2年度青少年健全育成事業の実施状況について

ア 青少年相談員連絡協議会事業

イ 子ども会育成会連絡協議会事業

ウ 青少年育成袖ヶ浦市民会議

エ 放課後子ども教室

(4) 意見交換

### 5 閉 会





### (3) 令和2年度青少年健全育成事業の実施状況について

#### ア 青少年相談員連絡協議会事業

令和2年度 袖ヶ浦市青少年相談員連絡協議会事業報告

##### 【活動の目的】

青少年相談員は、青少年健全育成の担い手として、また、青少年のよき理解者として、その任務の重要性を十分に認識し、青少年とのふれあいの仲で愛情と熱意をもって、次の重点目標の達成を期し、青少年健全育成の先導役として積極的な活動を行う。

##### 【重点目標】

- 1 各地区における青少年育成関係団体との連携と協調に基づく育成活動を展開する。
- 2 地域ぐるみの健全育成を図るため、市民に対する啓発活動を推進する。
- 3 明るい社会環境づくり活動を推進する。
- 4 青少年健全育成活動に資するため研修会を実施する。

##### 【主な活動内容】

今年度はコロナウイルスの影響により、夏の子どもスポーツ大会をはじめ、様々なイベントが中止となっています。しかし、何かできることは無いかと、袖ヶ浦市・木更津市・君津市・富津市の君津地区四市の青少年相談員で話し合った結果、各小学校の児童たちと協力し、コロナウイルス退散を願った万羽鶴を作成することになりました。

#### イ 子ども会育成会連絡協議会事業

令和2年度 袖ヶ浦市子ども会育成会連絡協議会事業報告

##### 【活動の目的】

子ども会は同じ地域に住む様々な年齢の子どもたちで組織されたもっとも身近な地域集団です。「遊び」を中心とした活動をとおして、自主性や社会性など、将来たくましく生きていくために必要な心と体の能力を身につけていくことを目的としています。

##### 【活動状況】

昨年度末より、コロナ禍の影響により、各イベントが軒並み中止または延期となつてしまいましたが、新しい生活様式の中で行える活動を、現在模索しています。

## ウ 青少年育成袖ヶ浦市民会議

### 1 青少年育成袖ヶ浦市民会議

青少年の健やかな成長は、袖ヶ浦市民みんなの願いであり、青少年にとって最も身近な生活の場である地域において、育成活動を行うことが基本であるといわれています。

そのような状況の中、住民を主体に地域ぐるみで青少年の健全育成活動に取り組むため、昭和53年に県のモデル地区として「青少年育成袖ヶ浦市民会議」が発足しました。

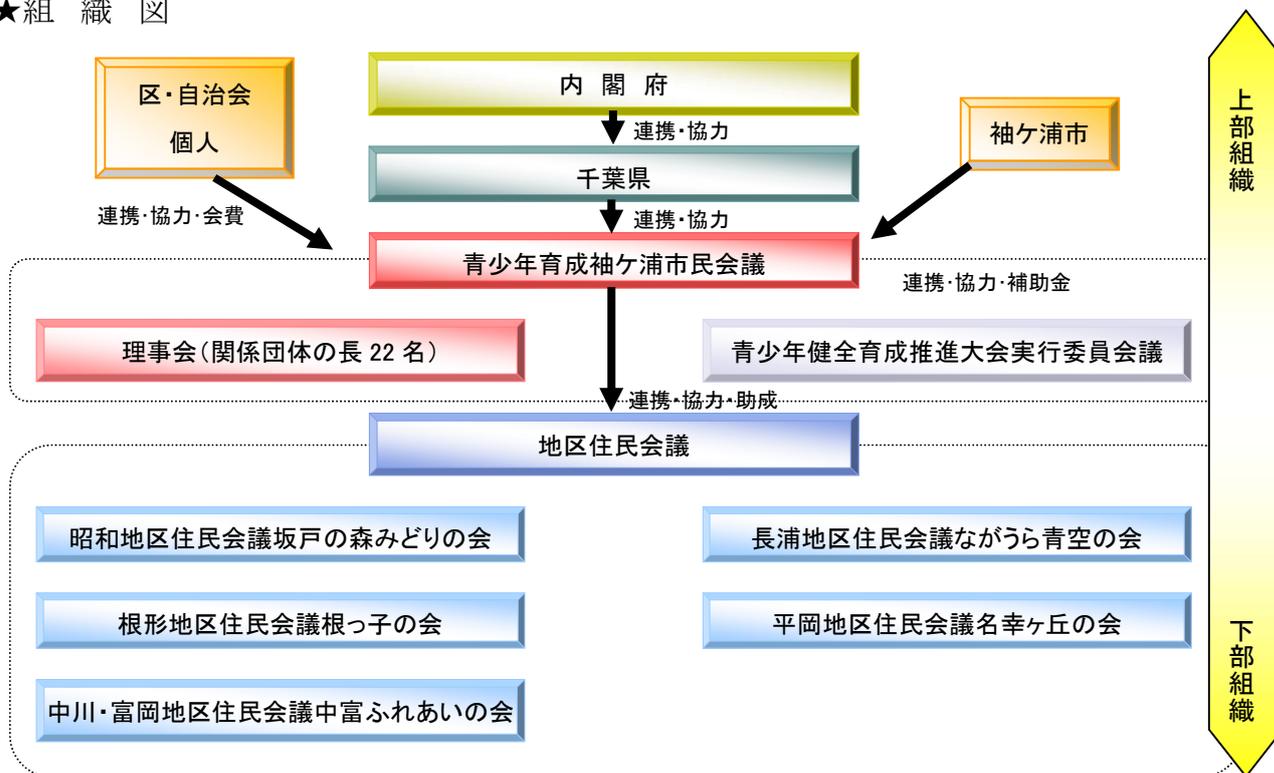
また、平成14年には、より地域に根ざした活動を行うために、青少年育成袖ヶ浦市民会議の下部組織として、市内5地区に「地区住民会議」が発足しました。

★設立年月日 昭和53年（1978年）12月8日

★構成団体 22団体

社会教育委員、自治連絡協議会、青少年相談員連絡協議会、子ども会育成会連絡協議会、君津地区保護司会袖ヶ浦支部、スポーツ推進委員協議会、ガールスカウト育成会、小中学校長会、サッカー協会、レクリエーション協会、公民館運営審議会、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、ボーイスカウト育成会、PTA連絡協議会、少年野球連盟、君津地区更生保護女性会袖ヶ浦支部、坂戸の森みどりの会、ながうら青空の会、根っ子の会、中富ふれあいの会、名幸ヶ丘の会

### ★組織図



## 2 地区住民会議の活動

### (1) 子ども安全パトロール（全地区）

児童の登下校時間に合わせ、オレンジ帽子をかぶって買い物や散歩をしながらパトロールを行い、児童生徒の安全確保を図っている。

### (2) 夏季愛のパトロール

夏休み期間中に青少年関係団体と協力してパトロールを行い、青少年の見守り・非行防止に取り組んだ。また、危険個所の確認を行った。

### (3) 通学合宿（小学生が公民館に宿泊し、共同生活をしながら学校に通う事業）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止。

### (4) デイキャンプ

（飯ごう炊さんやキャンプファイヤー等、非日常的な体験の場を提供する事業）  
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止、又は中止を予定している。

## 3 青少年健全育成推進大会

目 的 次代の担い手である青少年健全育成が、真にその成果を発揮するためには、地域における住民の日常的な育成活動が活発に行われることが必要である。このため、青少年関係機関、団体等の関係者をはじめ一般市民の参加を求めて、青少年健全育成推進大会を開催し、市民各層の青少年育成運動に対する理解と自覚と積極的参加を促進するため開催する。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止。

青少年育成者感謝状については、令和3年2月13日開催の袖ヶ浦市生涯学習推進大会にて贈呈する。

## エ 放課後子ども教室

### 1 放課後子ども教室とは

小学校区において、放課後や長期休業中等に小学校の余裕教室等を利用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、体験・交流活動等を実施する。これらの活動を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進する。

#### 【目的】

- |                |
|----------------|
| ① 安全な活動場所作り    |
| ② 体験活動         |
| ③ 異学年の交流       |
| ④ 地域住民の交流、学校理解 |

### 2 市内実施状況

- ・昭和小学校「もりのこクラブ」 平成20年度～  
長浦小学校「あそボラ!!やかたっ子広場」 平成25年度～  
⇒年間24回（月2回程度）、木曜日に1～2時間程度実施

根形小学校※試行実施 令和元年度～  
⇒年4回（7・9・11・1月）、木曜日に1～2時間程度実施

- ・放課後帰宅せずに、スタッフ等が見守る中で、学校の体育館やグラウンド等で自由あそびを中心に活動する。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により活動中止となりました。  
今後の実施については、状況を注視し、検討してまいります。

